

トイレが教えてくれたこと

新人職員のミサさんは、勤務先の施設で毎朝同じ清掃担当の男性と顔を合わせていました。

ある日、トイレを使おうとしたとき、その方から声をかけられます。「最初に入るとときは、ここに一言あいさつしてから使うと気持ちが違うよ」。

半信半疑ながら実践すると、不思議と床の汚れや紙の乱れが気になるようになりました。

男性は続けてこう話します。「玄関や教室が大事なのは当然だけど、トイレはもう一つの顔なんだ」。

誰の目にも触れにくい場所だからこそ、丁寧に整えるのだといいます。

その人はいつも穏やかな表情で作業をしていました。忙しい日でも手を抜かず、淡々と掃除を続ける姿に、ミサさんは学びとの多さを感じます。

居心地の良さは、目立たない場所の心配りから生まれる。そう気づいたとき、トイレは単なる設備ではなく、心を映す鏡のように思えたのです。

今日の言霊
整った場所は、人の心も整える。

学校や職場のトイレは、単なる生活空間ではありません。そこには、見えない存在が宿ると考え、丁寧に向き合う文化があります。玄関や教室が来訪者を迎える最初の空間だとすれば、トイレは次に人柄が映る場所です。人目につきにくい場所ほど、その組織や人の姿勢が表れます。

清掃に携わる人が明るい表情で働いている環境は、それだけで安心感を与えます。楽しそうに、誇りをもって取り組む姿は、周囲に良い影響を広げていきます。教職員がこうした視点を持つことで、子どもたちにも「場所を大切にする心」「誰かのために整える姿勢」が自然と伝わっていくでしょう。

見えないところに心を配る態度は、教育そのものです。トイレを丁寧に扱う行動は、人を大切にする感覚を育てる一歩になります。日常の中にある小さな所作こそ、信頼と品格を形づくる土台なのです。

人の本質や組織の姿勢は、見えにくい場所の扱い方に表れる

【今回の学び】⇒人の本質や組織の姿勢は、見えにくい場所の扱い方に現われる！

